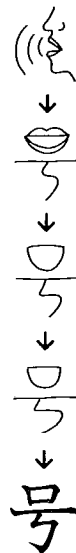


号

三年 画数 5
筆順 一、ロ、ㇿ、号

ゴウ



成の立ち

「口」という字と、「ものかしぜんにたれ下がる形」をあらわした「号」を組み合わせて作った字です。

「口からしぜんに出てくる声」をあらわした字です。それで、かなしいときに「しぜんに口から出てくる『なき声』」といういみにつかわれます。

大ぜいの人にめいれいするときには「しぜんに」大きな声になります。それで、大ぜいのひとにめいれいする声は「号令」と言つて、「大きな声」をあらわします。

声は、その人の心の中をあらわす「しるし」なので、「号」は「しるし」といういみにつかわれます。

また、「順序」をあらわす「しるし」としてもつかわれます。例) 一号車、二号車。

使い方

▽みんな楽しさのあまり大きわざして、先生の号令も、スタートの号音も耳に入らないありさまです。

▽記号には、符号のように人にわかりよいものほどよいものもあれば、暗号のように人にわかりにくいものほどよい、というものもあります。

熟語例

▽号令(大きな声でする命令。大ぜいの人をさしずして一せいにうごかすのにつかいます。「気をつけ!」「前へならえ!」など)

▽号音(あいつのしるしに出す音。たとえば、かけっこのスタートの時につかうピストルの音など)

▽記号(あるいみを人につたえるためのしるし。文字や符号などがあります)

▽符号(文字でない記号。たとえば、算数でつかう「十・一・三」など。また、心おぼえのためにつける目じるしの◎や△などもそうです)

▽暗号(あい手にだけいみがわかつて、ほかの人にはわからない記号のこと)

▽商号(商売につかう呼び名。「屋号」)

根

三年 画数 10
筆順 一、木、根

ネ



成の立ち

「退く」といういみの「良(見[1年21])のうしろむきの形で、「うしろを見る」いみの字」と「木」とを組み合わせて作った字です。

木のみきやえだは上にむかつてのびますが、そのはんたいの、下にむかつてのびる「木の『ね』」をあらわした字です。

根は、木のぜんたいをささえるだじなところなので「よりどころ」といういみにもつかわれます。だから、「根気」といえば、「人をささえる気力」「ものごとをやりとおす気力」のことをいいます。

使い方

▽大根の根のように見るところは根ではなくて、くきだそうです。でも、ふつうは根といい、だから大根というのです。

▽無根のうたがいのため、しごとがやりにくくなり、たいへんなうらで精根もつきはてました。

熟語例

▽大根(白い根のようなところを食べるやさい。ふとくて大きいので「大根」という名がつけられました)

▽球根(地中のくきや根のぶぶんが球の形をしているもの。ユリやダリヤなど)

▽無根(「根拠が無い」こと。「根も葉も無い」といういひかたもあります)

▽根拠(拠は「よりどころ」。根はしよくぶつの「よりどころ」ですから、根と拠とで「よりどころ」のいみをあらわしました)

▽精気(精力(心身をはたらかせ、しごとをやりぬくものになる力)と根気)

▽根気(草や木に根がひつようなように、人がしごとをするのに一番ひつような「しんぼうづよい気もち」)